

PRESS RELEASE

2018 / 9 / 26

辰野登恵子 オン・ペーパーズ

TOEKO TATSUNO: ON PAPERS

A Retrospective 1969-2012

2018年11月14日|水|～2019年1月20日|日|

埼玉県立近代美術館

1950年に長野県岡谷市に生まれ、東京藝術大学に学んだ辰野登恵子は、1970年代にドット(点)やグリッド(格子)、ストライプなどの規則的なパターンを用いて、理知的で抑制された表現の版画を発表し、若くして注目を集めました。ほどなく制作の中心を油彩に移し、豊潤な色彩で有機的な形象を描く独自の抽象表現を追求、2014年に亡くなるまで、自らの絵画を深化させ続けました。

大型の油彩が高く評価された辰野ですが、この展覧会では版画やドローイングなど紙の上の表現に光を当て、辰野の画業を再検証します。初期のシルクスクリーンによるコンセプチュアルな版画に始まり、油彩の制作を本格的に開始したのちも、辰野はそれと並行してエッチングや木版、リトグラフなどさまざまな版種による版画の制作に取り組んでいます。油彩での試みを版画で追体験し、あるいは版での成果を油彩に反映させる制作によってもたらされた、油彩と版画の豊かな並行関係は特筆すべきことです。また、油絵具やパステルによる大型のドローイングは、単に油彩のためのエスキースにとどまらない、画家にとって重要な実験の場となっていたことも窺えます。

紙の仕事を傍らに、辰野登恵子の絵画をとらえなおすこと。これまでまとまった展観の機会が限られていた紙の仕事を中心に、油彩30点を含む約220点の作品で40年余りの軌跡を振り返るこの展覧会が、辰野の画業のクロノロジーに新たな視座を与えてくれるはずです。

展覧会のみどころ

1. 初期作品の全体像を総観

大型の油彩が高く評価された辰野登恵子ですが、1970年代に美術家として出発した時に手がけていたのは、写真製版によるシルクスクリーン版画でした。グリッド(格子)やストライプをモチーフとした版画連作で、辰野は初めて自分自身のオリジナルな芸術表現を手にした実感を得たといいます。

本展前半部では、自刷りのシルクスクリーン版画連作を中心に、東京藝術大学在学中から本格的な油彩制作の開始まで、1970年代の制作の全体像を紹介します。展観の機会が限られていた初期作品を通観する絶好の機会です。

2. 油彩と紙の仕事の関係

辰野は油彩の制作を本格的に開始したのちも、それと並行してさまざまな版種による版画の制作に取り組んでいます。油彩と版画の豊かな相関関係は、辰野の制作において特筆すべきことです。また、パステルや油絵具で描かれた大型のドローイングは、紙の表現としての完成度の高さのみならず、油彩における特徴的なモチーフの展開を読み解く手がかりとしても非常に重要です。

本展後半では、代表的な油彩と、それに関連する多数の版画やドローイングを並置して紹介します。紙の仕事を通じて辰野の絵画を再検討する、新しい試みです。

3. 信濃毎日新聞挿絵

2006年に信濃毎日新聞に連載された辻井喬(堤清二)の随筆「漂流の時代に」。1年間、毎週土曜日に掲載され、52回に及んだこの連載の挿絵を辰野登恵子が担当しました。

挿絵には、故郷である長野県岡谷市の風景や身近な草花、割れてしまった器など、身の回りの事物が素直に描かれており、画家の知られざる一面を垣間見せてくれます。本展ではこの挿絵原画全52点を初めて一堂に展示します。

展覧会情報

1. 会期 2018年11月14日(水・県民の日)～2019年1月20日(日)
休館日：月曜日(12月24日、1月14日は開館)、
年末年始(12月27日～1月4日)
2. 開館時間 10時～17時30分(展示室への入場は17時まで)
3. 観覧料 一般1100円(880円)、大高生880円(710円)
()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。
※併せてMOMASコレクション(1F展示室)もご覧いただけます。
4. 主催 埼玉県立近代美術館、東京新聞

5. 助成 芸術文化振興基金
6. 協賛 株式会社 資生堂
7. 協力 JR東日本大宮支社、FM NACK5
8. 出品点数 約 220 点（予定）
9. 会場案内／アクセス

埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1
電話 048-824-0111 FAX 048-824-0119

<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分です。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

関連イベント

■トークイベント「辰野登恵子と絵画の現在」

ゲスト：千葉正也、高木大地、松井えり菜

1 月 13 日（日）15:00～16:30（開場は 30 分前）／2 階講堂／定員：70 名（当日先着順）／

料金：無料／内容：辰野登恵子と親交のあった若手画家をゲストに迎え、お話を伺います。

■担当学芸員によるギャラリートーク

12 月 15 日（土）、1 月 19 日（土）／各日とも 15:00 から 30 分程度／2 階展示室／

料金：企画展観覧料が必要です。

■ミュージアム・コンサート[整理券制]

「音楽の力は国境を越えて」

12 月 16 日（日）14:30～（開場は 30 分前、演奏時間は約 60 分）／地階センターホール／

定員 60 席（当日 11:00 から 1 階受付で整理券を配布）／料金：無料

出演者：植村理葉（ヴァイオリン）、佐藤彦大（ピアノ）

内容：企画展にちなんで、アメリカ、日本の作曲家の作品を馴染みあるクラシックの名曲に交えてお届けします。

■[スライド・トーク]ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内します（予約制）。お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当（電話 048-824-0110）まで。

お問い合わせ

展覧会担当：大浦、嶋原 / 広報・画像に関してのお問い合わせ：谷田

電話 048-824-0111（代表） / 048-824-0110（学芸部） Fax 048-824-0118

広報用画像の提供について

※以下の画像の掲載については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・谷田）までお願いします。

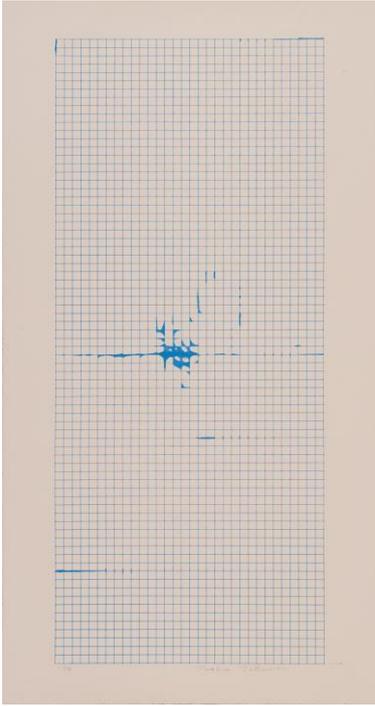
- ・画像の掲載にあたり、本展では著作権使用許諾申請が必要ありません。
- ・画像掲載する場合、下記キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようお願いします。

■キャプション

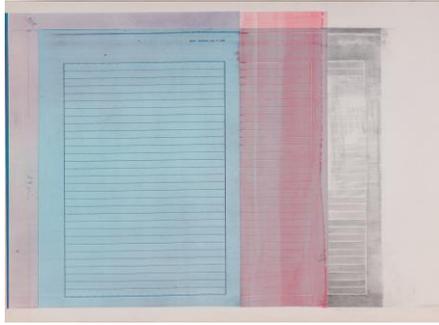
- ① 辰野登恵子《UNTITLED-35》 / 1974年 / シルクスクリーン、紙 / 撮影：岡野圭
- ② 辰野登恵子《WORK 76-D-5》 / 1976年 / シルクスクリーン、紙 / 撮影：大谷一郎
- ③ 辰野登恵子《WORK 77-D-10》 / 1977年 / シルクスクリーン、紙 / 撮影：岡野圭
- ④ 辰野登恵子《WORK 80-N-1》 / 1980年 / シルクスクリーン、紙 / 撮影：大谷一郎
- ⑤ 辰野登恵子《WORK 81-D-30》 / 1981年 / 油彩・パステル・鉛筆、紙 / 撮影：岡野圭
- ⑥ 辰野登恵子《WORK 82-P-36》 / 1982年 / 油彩、カンヴァス
- ⑦ 辰野登恵子《Oct-20-95》 / 1995年 / パステル、紙 / 撮影：岡野圭
- ⑧ 辰野登恵子《AIWIP-25》 / 2012年 / リトグラフ、紙 / 撮影：岡野圭

※いずれも個人蔵 ©辰野剛、平出利恵子

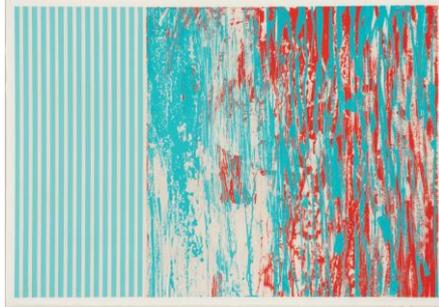
広報用画像



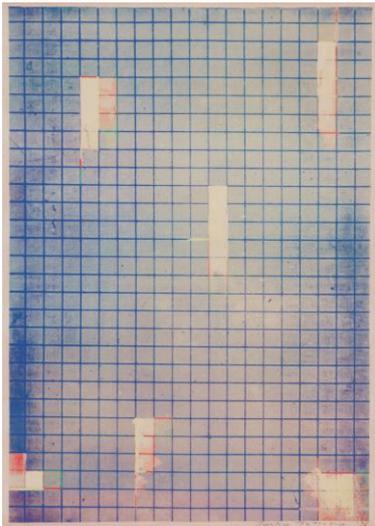
①



③



④



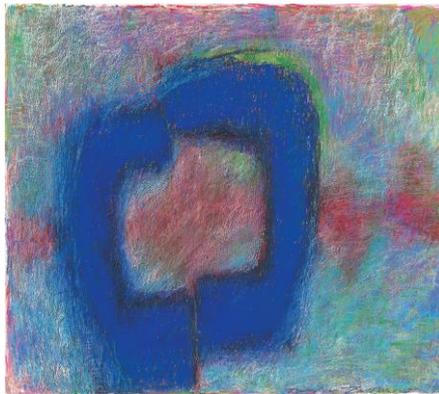
②



⑥



⑤



⑦



⑧